

令和5年度 静岡市保健所運営協議会 会議録

- 1 日時 令和6年2月6日(火) 午後7時15分～午後8時45分
- 2 場所 城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟3階 第1・2研修室
- 3 委員 【出席委員 11名】  
鈴木 泉 委員、吉永 治彦 委員(会長)、日野 昌徳 委員、  
小野寺 知哉 委員、望月 亮 委員、小長谷 晋吾 委員、吉永 陽子 委員、  
早馬 正人 委員、岩崎 厚子 委員、鈴木 晴久 委員、畑中 純子 委員  
【欠席委員 2名】  
清水 寿哉 委員、柴山 馨 委員
- 4 事務局 田中保健所長  
(保健予防課) 原田課長、松田参事兼課長補佐、望月係長、  
酒井係長、阿部主幹兼係長、蒲生係長  
(生活衛生課) 海野課長、中野参事兼課長補佐、渡邊係長  
(食品衛生課) 山本課長、永井課長補佐、山田係長、富田係長  
(精神保健福祉課) 野ヶ山課長、前林課長補佐兼係長、板倉係長  
(保健所清水支所) 松田支所長、杉本所長補佐兼係長、稲葉係長
- 5 傍聴者 なし
- 6 議題 (1) 令和4年度事業報告  
(2) 令和5年度新規事業等報告  
(3) その他
- 7 会議内容 (1) 開会 事務局  
(2) 保健所長挨拶 田中保健所長  
(3) 委員紹介 各委員  
(4) 事務局出席職員紹介 各所属長  
(5) 会長及び副会長選任  
(6) 議題1及び議題2 事務局(保健予防課、生活衛生課、食品衛生課、精神保健福祉課の順に)から説明  
以下、委員発言

議事録

吉永会長	ただいまの事務局の説明についてご質問等がありましたら、お願いします。
鈴木委員	保健予防課の風疹抗体検査事業について、件数が前年度と比べて半数になっているが、その原因は何か。
保健予防課長	風疹抗体検査は、妊娠を希望する女性とそのパートナー、同居家族に行うものと、緊急風疹対策として記載のある男性に検査をするものがある。この検査は、平成31年度から始まっている。当初、8万2000人程度の対象者にクーポン券を送付し、受診を促していたが、現状、2万5700人程度が接種済である。妊娠を希望するパートナーの人数については、例年大きく変化していないが、クーポン券を使用して接種している方が年々減っているため、前年度と比較し減少しているという状況である。
鈴木委員	クーポンは今後も定期的に静岡市から対象者に発送する予定なのか。
保健予防課長	クーポン券は、今後、新たに追加して発送する予定はないが、接種の勧奨は行っている。このような検査があるという情報を直接市民にお届けする予算がないが、様々な形を使って検査を受けていただくよう、PRしていきたい。
望月委員	精神福祉業務についてお尋ねする。いわゆる23条通報が令和3、4年度に異常に増えているが、何か理由があるなら教えてもらいたい。
精神保健福祉課長	服薬について、通院しているのに中断している方がおり、そこから措置になるケースが多いと考える。
所長	精神障害者の方は、きちんと服薬いただければ措置になることはほとんどないと考えている。誰かが見守りの中でサポートしていかなければならないが、現状推測すると、コロナ禍の影響で、人と人の距離が大変希薄になったことがその要因ではないかと考える。
早馬委員	精神保健福祉課の令和4年度の自殺対策事業についてだが、資料だけ見ると、このような件数なのかと思ってしまう。いのちの電話を利用する方が多いのか、コロナの影響を受けているのか、そのあたり詳細を教えてください。
精神保健福祉課長	件数で見ると少ないが、ここに表れていない相談を受けている状況である。また、静岡市以外からも相談をいただいている。

<p>所長</p>	<p>自殺の実態や相談体制は、情報源が限られており、なかなか自殺対策に結びつかない現状にある。そのため、令和5年度の新規事業として、まず実態を掴むことを目的に、大学に分析を委託している。自殺の実態については、警察は事件との関係により情報をなかなか出してくれない。アドバイザリーボードの分析として、救急の患者で、自傷の方を分析いただき、どういうところに効果的な相談体制を作っていくのか、検討し、来年度にその成果について報告できればと思っている。</p>
<p>吉永会長</p>	<p>私事であるが、自殺に関して、令和6年7月から、静岡県の警察協力委員会の会長をやらせてもらう。自殺は、コロナ禍になって増え、ストップがかけられなくなっていると強く現場で感じている。人と人との関わりが希薄にならざるを得ない状況であるが、警察との情報交換をスムーズに進めていけたらと思っている。</p>
<p>畑中委員</p>	<p>精神保健福祉課の相談指導と訪問指導の件数についてだが、前年度に比べて、精神障害者の方の様相が変わってきているかと思うが、特徴はあるか。</p>
<p>精神保健福祉課長</p>	<p>相談件数で増えているのは、家族からの相談である。その中で、訪問指導し、病院に繋げていっている。家族に見守ってもらいながら指導している。</p>
<p>畑中委員</p>	<p>自殺の件だが、分析しているのは今年度の自殺者か？</p>
<p>精神保健福祉課 企画係長</p>	<p>分析してもらっているデータは、年単位（1～12月）なので、令和4年の数字である。令和5年分については、暫定しか出ていないが、全国の数字で言うと、令和4年と同等くらいになるのではないかと国から情報が出ている。</p> <p>また、先ほど、ご質問をいただいた「いのちの電話」の相談件数については、今回の会議資料に記載していない。いのちの電話には匿名性があるため、静岡市民からの電話相談が何件か分からないが、令和4年度においては、9,015件の内、静岡市民であると電話の中で判明できたものだけで2,841件である。</p>
<p>畑中委員</p>	<p>先ほど、警察からの情報がないということだったので、どこからの情報を市では分析されているのか改めて確認したい。</p>
<p>所長</p>	<p>捜査上の問題で警察のガードが固いこともあり、個別の警察と個別の自治体が、データのやり取りを直接しているわけではない。国が一括して警察のデータを分析し、各自治体は毎年、国からデータをフィードバ</p>

	<p>ックしてもらおう仕組みになっている。ただ、それだけでは様々な情報が抜け落ちるため、我々は、今回、アドバイザーリーボードと分析を大学に委託し、様々な研究報告を加味しながら、本市の実態を深掘りし、分析、研究しているところである。</p> <p>その一環として、救急の自傷データを分析することで、対象者の住所、時間帯、発生日等を救急データで見ることができると、そこを深掘りしていけないかと考えている。</p>
小長谷委員	<p>保健予防課の難病患者リフレッシュ事業についてお伺いする。例えば医療的ケア児の現状、支援事業に対して、親から直接連絡がくるのか、制度設計はどのようになっているのか。医療的ケア児の相談窓口はあるのか。就学支援に関わる機関や職種についても教えていただきたい。</p>
保健予防課 難病支援係長	<p>昨年度までは、就学支援と在宅支援の両者から申請を受けていたが、今年度からは、就学支援については、教育委員会が実施することになっている。訪問看護ステーションと本市で委託契約を結び、事業を実施し、補助金を交付している。</p>
小長谷委員	<p>所謂、相談窓口という認識で良いか。</p>
保健予防課 難病支援係長	<p>委託業者を通して、支援を行っている。</p>
保健予防課 医療援護係長	<p>医療的ケア児という括りではないが、市では、小児慢性の病気を持つ児童を対象とした相談窓口はあり、委託している。医療的ケア児については、当課も関わっているが、静岡市の所管部署は、障害者支援の担当課が相談体制の構築をしているところである。</p>
保健予防課 難病支援係長	<p>難病患者への相談窓口として、静岡市難病相談支援センターを設置している。</p>
吉永会長	<p>今の話だが、訪問看護ステーション等から主に情報が上がってきてサービスにつなげているということか。</p>
保健予防課 難病支援係長	<p>リフレッシュ事業については、訪問看護ステーションのスタッフ等から、必要な情報を提供してもらっている。</p>
望月委員	<p>自殺の件や医療的ケア児にもつながってくるが、診療報酬との関係で言うと、医科、歯科、薬科で共通して算定できる心の連携指導料というものがある。これは、福祉職だけでは限界があるため、医療職に問題点</p>

	<p>を見つけてもらい、そこから支援につなげていこうというものである。心の連携指導料の算定要件は自殺対策の報酬事項である。極めて算定医療機関が少ない。心の連携指導料は1と2があり、精神科病院では2を、一般診療所が1である。医療的ケア児は、注目されているため、医療職に頼って、問題点などの発見を担わせていただけたらより良い支援に繋がっていくのではないかと考える。</p>
<p>精神保健福祉課 企画係長</p>	<p>昨年、心の連携指導料については、医療機関に知られていない現状があるため、「加算のトリセツ」と銘打った市独自のマニュアルのようなものを作り、本年度の取り組みとして着手しているところである。3月末までには、東海北陸厚生局にもご意見をいただき、完成させていきたい。</p>
<p>小野寺委員</p>	<p>各区の福祉事務所障害者支援課、障害福祉企画課、そして保健所がどのようにタイアップしているのか。</p>
<p>精神保健福祉課 相談係長</p>	<p>障害者は、「身体障害」、「知的障害」、「精神障害」の3障害に分けられる。本市の場合は、「身体障害」と「知的障害」は、障害福祉企画課が所管し、「精神障害」は精神保健福祉課が所管している。なお、地域での生活をより良くしていくため、障害福祉企画課と当課で自立支援協議会を設置している。</p>
<p>小野寺委員</p>	<p>感染症についてだが、肝炎等の感染症の検査は、特定健診とのコラボはされないのか。</p>
<p>保健予防課 結核・感染症係長</p>	<p>エイズなどの性感染症の検査は、匿名でないを受けづらく、匿名となると他の検診とのコラボはしづらい。また、ウイルス肝炎は、単独で検査が受けられる体制になっており、生涯に一回病院で受けることができるため、今後、健康づくりの検診等でPRしていきたいと考えている。</p>
<p>小野寺委員</p>	<p>静岡市のホームページが新たに作られると伺っている。保健所においても美しいホームページを今後作っていくのか。</p>
<p>所長</p>	<p>保健所は公衆衛生行政ということで、基本の考え方が「予防」と考えている。感染症に限らず、食中毒など、予防に関する情報を市民に流していくことが重要であると考えている。</p> <p>今回新型コロナウイルス感染症の発生というのは、日ごろやっていないことを危機の時にやってもうまくいかない、ということを感じた。多くの情報をマスコミに流したが、マスコミの編集の中で、思った形での情報提供がうまくできなかった。</p> <p>情報提供については、強化をしていく。「たべしずねっと」や「こころ</p>

吉永会長	<p>の健康センター」でも鬱の患者へのビデオを流して好評だった。日ごろから市民に見てもらえるようなホームページにしていきたい。積極的な情報提供、日ごろから役立つ情報提供をしていきたいと考えているため、今後も、お知恵をいただければと思う。</p> <p>以前、田中所長の講演を聞いたことがある。成田空港で新型コロナウイルス感染症の水際対策の指揮を取られたご経験をぜひ一般の方にも情報発信されたら良いと思う。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の対策については、保健所も大変苦勞されたと思う。静岡市は救急搬送の困難事例が少なかった。同規模の自治体と比較すると搬送困難が10分の1だった。病院が断らずに、連携してくれたこと、ドクターサポートの力、そして、静岡市が一丸となってやった結果だと思う。保健所が一手に対応してくれていたと思うが、職員のメンタルは大丈夫だったのか。</p>
所長	<p>職員は、苦勞して対応していた。</p> <p>ドクターサポートについても、本来保健所職員が対応しなければならないところを、医師の皆様が自宅待機をサポートしていただき、かかりつけの先生が日々対応してくれる安心感が相当大きかったと思う。また、病院の受入れについても、コロナ当番1234番まで決めていただきありがとうございます。</p> <p>予防計画では、初動のところで苦勞をした。初動体制については、第6波並みに維持していくことを目標に考えている。</p> <p>今回、静岡県と我々の予防計画のすり合わせを行い、ベクトルを揃えて初動体制を作ったので、万が一来た場合にはよろしくお願ひしたい。</p>
早馬委員	<p>今日ここへ来て初めて資料を見せられる。今後は、事前に資料送付をいただけるとありがたい。</p>
保健予防課長	<p>来年度、会議の1週間前には資料を送りたいと考える。</p>
小野寺委員	<p>静岡市の中で、災害医療をやるところはないのか？</p>
生活衛生課長	<p>静岡市の中で、救護所で医薬品を置く場所が決まっており、そちらで必要な医薬品を確保する事業を生活衛生課が行っている。全体的話になると別の所管になっている。</p>
小野寺委員	<p>救護所の医薬品を置くといった業務を保健所が行っているということか。</p>

生活衛生課長	事業としてはそうである。
鈴木委員	医療用セットの更新については、保健所が考えた医療用セットなのか。
生活衛生課長	平成 26 年に、静岡医師会、清水医師会、静岡歯科医師会、清水歯科医師会、静岡薬剤師会、清水薬剤師会の皆様と話し合っていたいただき、決めていただいた内容を、安全に使えるように、期限が切れる前に更新している。中身が今と変わってきているため、見直しをしていただき、次期予算要求に反映させ、令和 7 年度に更新していく予定である。
吉永会長	岩崎委員、鈴木委員は何かご質問ありますか。
岩崎委員	いのちの電話の相談件数が 9000 件あるにも関わらず、自殺対策のゲートキーパーを要請する研修の参加人数や実施回数が減少している。救急医療の中で、オーバードーズが多く、搬送時一人の方、自宅に一人であった方が見られる。こういった研修が少なくなって良いのか。
精神保健福祉課 企画係長	<p>令和 3 年度の数が多かったのは、民生委員が集まる大会で研修をしたことが大きく影響している。令和 4 年度については、子ども・若者自殺対策に力を入れ、高校生に対する SOS の出し方の研修といったモデル事業に力を入れたため、ゲートキーパー研修を実施できなかった。</p> <p>新たな取り組みとして、職員が講師をするだけでなく、民間や先生がゲートキーパーの講師になれるよう「ゲートキーパー講師養成研修」を委託事業化して日本産業カウンセラー協会と共同で実施しているところである。</p> <p>高齢者の自殺も増えていることから、楽寿会の幹部クラスに研修を実施している。各事業所で半永久的にゲートキーパー研修を実施してもらえるよう、すそ野を広げているところである。また、市の職員を対象に e ラーニングによる研修も実施している。加えて、しずここネットという本市独自の自殺対策ホームページで、こころの健康センターと共同作成した動画も公開予定であり、いつでもどこでもゲートキーパー研修を受講できる体制を構築している。</p>
吉永会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>一般の方だけではなく医療関係者にも発信をお願いできればと思う。それでは、ご質問等がなければ、これを持ちまして本日の会議を終了いたします。</p> <p>[閉会]</p>

令和 6 年 7 月 10 日

会長

吉永 隆之